

平成 30 年度 経営発達支援計画の自己評価（外部有識者の事業評価と見直し）

評価点数 3.75 点（5 点評価）

I 経営発達支援事業の内容

1. 経済動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
景況調査は、丹波市の経済動向を把握する上で重要であり、アンケートに加え、ヒアリングの実施はより実態把握につながり有効である。	現在、景況調査の分析に当たっては、紙面による調査と併せ、聞き取り内容を特記事項として集約し、業種別に分類した情報も活用している。
景気動向の状況を踏まえ、有益な情報として具体的にどのように活用したのか次年度の検証で示してほしい。	分析した情報は、巡回時会員に対し周知すると共に、経営計画策定時の地域経済状況の分析に活用している。次年度に向け活用実績がわかるように記録等の充実を図りたい。

2. 経営状況の分析

指摘事項	見直しを行った結果
検証において、アンケートの一例を紹介することに加え、どのような成果につながったのか次年度の検証では具体的に示す必要がある。	次年度は、支援者アンケートに加え、具体的な事例を示し、その効果や課題を明らかにすることとした。

3. 事業計画策定支援

指摘事項	見直しを行った結果
経営支援チームによる計画策定支援は、効果的であると感じた。職員一人ひとりの業務量が多い中、大変ではあると思うが継続を期待する。	課内やベテラン職員と若手職員といった複数職員での支援は継続しているものの、当初取り組んでいた支援チームによる会員支援は一部機能していない面もある。次年度に向けては、案件毎、支援毎複数の職員で対応しながら様々な角度から指導・助言できるよう取り組む。
経営革新計画は、全県的にもやや減少傾向にあります。事業者にとって商工会の支援は極めて大きなものがあり、策定にあたってのアドバイスは必要不可欠と言える。 引き続き、尽力をお願いしたい。	引き続き小規模事業者の「強み」や「事業機会」を捉えた計画策定の重要性を啓蒙しながら、経営革新計画策定支援を継続したい。
ご承知のとおり、最近の中小事業者にとって、“事業承継”は、最優先課題の1つでもあり、県としても、今年度に補助制度を創設したところである。商工会としても、事業承継セミナーの開催等、承継計画の策定支援に積極的に取り組まれています。今後、更なる支援をお願いします。	次年度も事業承継セミナーを開催する予定であるが、これまでとは違いセミナー後の個別相談に注力した内容としている。基礎知識のみならず個別相談を通じて計画策定から株式譲渡、税制等様々な課題に伴走型で支援する準備を行っている。

4. 事業計画策定後の実施支援

指摘事項	見直しを行った結果
定期的、計画的な巡回相談に取り組まれている。 継続的な取組みを期待する。	小規模事業者には担当職員をつけ定期的に巡回しながら計画の進捗状況を確認している。
検証においては、数値など具体的な成果を示すことが求められる。	次年度立ち上げる小規模事業者支援システムでは財務内容を入力することで数値による支援効果の可視化に取り組む予定である。
検証欄には会員からの意見として、良いことと悪いこと両方の記載が必要ではないか？ どう改善したかについては、数字の裏付けが必要。	「評価の高い意見」、「評価の低い意見」等併記しながら、低い意見に対しては分析を行った上で、次年度に向け改善についても検討し報告するようになりたい。

5. 需要動向調査

指摘事項	見直しを行った結果
需要調査の取組については、外部データの収集段階で躓いているが、目的とする『お客様への有益情報の提供』という意味において『トレンド情報の提供』レベルでも十分なような感じがする。。柔軟な発想で、実現可能な『手段』を再考されることを勧める。	再度、取り組み内容の検討を行う予定である。委員より提案のあった『トレンド情報の提供』を一つの解決策として考えたい。
目標未達成を受け、同調査取り組みへのアプローチを再考されたい。	
外部データや情報を効果的に事業者伝える工夫が必要である。	

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業

指摘事項	見直しを行った結果
効果的な販路開拓には、プレゼンが重要である。プレゼンに対する支援の充実に取組みたい。	展示会・商談会等への出展情報の発信と共に、出展希望先にはその効果を高めるための事前のプレゼン指導を実施する計画である。
販促・プレゼン支援は、未達である。的を絞った情報発信やSNS活用など改善すべき点が多いのではないかと考えられる	また、次年度工業部会の小規模事業者を中心にSNS活用による情報発信研修を予定している。
インターネットの活用効果も積極的にアピールしてはどうか。	リニューアルした商工会ホームページに「ピックアップ企業」や「ピックアップ事業」のコンテンツを設け、会員事業所の取り組みを積極的に発信する計画である。

II 地域経済の活性化に資する取組み

指摘事項	見直しを行った結果
ミニガーデンの設置は、地域内外からの集客効果が期待できる。	次年度も事業継続の予定で、柏原街なかに10箇所のミニガーデンを設置する。 その後も事業継続できるよう検討したい。
柏原支所会館のリノベーションは大事業であるが、活性化には欠かせない取組みであると考えてるので着実に実行いただきたい。	次年度リノベーション内容について検討を行い、次々年度実施する予定である。活性化に資する様取り組みたい。
活性化事業推進による集客力の向上については、どのくらい改善したのか？⇒具体的には出店支援を行った企業への聞き取りや交通量調査など客観的な数値を基礎とした検証データがほしい。	出店を支援した小規模事業者の意見や商工会に対する評価、また柏原街なかの交通量調査等の結果を今後は表記したい。

III 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組み

指摘事項	見直しを行った結果
事業所における経営課題等の的確な分析に向け、経営支援システムを有効に活用し、効率的、効果的な支援につなげていただきたい。	小規模事業者支援システムを有効活用し、小規模事業者の経営状況の把握と共通課題の抽出を行い、解決のための支援策を講じる。 また、支援した成果は売上高や売上総利益、営業利益等の数値で把握する。

その他

指摘事項	見直しを行った結果
“Biz ステーションたんば”との強い連携による更なる事業展開を期待しています。	より専門的かつ継続的な支援を行うためBiz ステーションたんばと連携しながら、効果が見える支援を行う。

全体を通じたコメント

- ◎全体をとおして、様々な取組みに精力的に取り組み、レベルの高い活動ができていると感じる。
- ◎少人数の中で更に効果的な活動をするためには、1人1人の職員が『1つのアプローチで複数の目的をこなしていく』ことが求められる。
- ◎お客様（会員企業・地元事業者）の繁栄と商工会の1人1人の職員の資質向上、地域と共に発展していく営みが求められる中で、年度当初に、
 - ①対応するお客様（会員企業・地元事業者）が何をどこまで目指しておられるのか。
：お客様事業目標
 - ②そのために職員1人1人が何をどこまでご支援するのか。
：商工会支援目標
 - ③そのご支援のために職員1人1人が何をどのレベルまで向上させるのか
：商工会職員各々のマインド・スキル到達目標
 以上3点を明確にしたうえで、企画・実行・検証をこまめに繰り返す営みをお勧めする。